

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成25年11月21日(2013.11.21)

【公開番号】特開2012-77893(P2012-77893A)

【公開日】平成24年4月19日(2012.4.19)

【年通号数】公開・登録公報2012-016

【出願番号】特願2010-226162(P2010-226162)

【国際特許分類】

F 1 7 C 9/02 (2006.01)

【F I】

F 1 7 C 9/02

【手続補正書】

【提出日】平成25年10月7日(2013.10.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

空温式液化ガス気化器(1)の蒸発部(2)において、前後方向に隣り合う蒸発ユニット(3)どうしの間の部分、および前後両端の蒸発ユニット(3)の前後方向外側の部分における上マニホールド管(6)よりも若干下方の高さ位置に、それぞれ左右方向にのびかつ左端が上マニホールド管(6)の左端よりも左方に至る散水管(16)が配置されている。図 3 に示すように、前後両端の散水管(16)を除いた他の散水管(16)の管壁には、前後両側の蒸発ユニット(3)における各フィン付き管(8)の 1 つのアウトターフィン(8a)の上部に解霜・解氷用水を吐出する複数の水吐出口(17)が、左右方向に間隔をおくとともに斜め下方を向くように形成されている。また、前後両端の散水管(16)の散水管(16)の管壁には、前後両端の蒸発ユニット(3)における各フィン付き管(8)の 1 つのアウトターフィン(8a)の上部に解霜・解氷用水を吐出する複数の水吐出口(17)が、左右方向に間隔をおくとともに斜め下方を向くように形成されている。散水管(16)の各水吐出口(17)は、フィン付き管のアウトターフィン(8a)に、解霜・解氷用水の 1 筋の水流を当てるようになされている。解霜・解氷用水の 1 筋の水流は、フィン付き管のアウトターフィン(8a)の上端から 3 c m 以上下側の部分に当たるようになされていることが好ましい。なお、解霜・解氷用水の 1 筋の水流が当たる部分の下限は、フィン付き管のアウトターフィン(8a)の上端から 1 0 c m 程度である。したがって、全蒸発ユニット(3)の各フィン付き管のアウトターフィン(8a)には、前後両側の散水管(16)の 2 つの水吐出口(17)から吐出される水流が当たるようになっている。なお、蒸発ユニット(3)の各フィン付き管のアウトターフィン(8a)には、前後いずれか一方の散水管(16)の 1 つの水吐出口(17)から吐出される水流が当たるようになっていてもよい。この場合、水流からフィン付き管のアウトターフィン(8a)に伝わる熱量が、2 つの水吐出口(17)から吐出される場合と均等になるように、1 つの水吐出口(17)から吐出される水量と、2 つの水吐出口(17)から吐出される水量を均等にすることが好ましい。